

## 令和7年 川崎港港湾調査 速報集計結果（概要）をお知らせします

「港湾調査」は統計法に基づく国土交通省所管の基幹統計調査です。ここでは、川崎港に入港した船舶及び川崎港と内外諸港との間で直接扱われた貨物について集計しています。調査期間は令和7年1月から令和7年12月（暦年）です。数値は速報値のため、後日変動する可能性があります。

### 令和7年のポイント

- 入港船舶の隻数、総トン数ともに4年ぶりに増加
- 海上出入貨物の貨物トン数が4年ぶりに増加
- コンテナ取扱個数が5年ぶりに増加

**入港船舶 15,764隻 (102.0%) / 7,235万総トン (105.9%)** ※()内の%は対前年比

**外航船<sup>\*1</sup>** 1,993隻 (103.9%) / 5,206万総トン (109.2%)  
うちフルコンテナ船 383隻 (94.6%) / 499万総トン (80.5%)  
**内航船<sup>\*2</sup>** 13,771隻 (101.7%) / 2,029万総トン (98.2%)

\*1 日本国内の港と海外の港間で航行する船舶のこと。

\*2 日本国内の港間のみで航行する船舶のこと。

**海上出入貨物 5,535万トン (100.6%) / うちコンテナ貨物 129万トン (109.8%)** ※()内の%は対前年比

**外貿<sup>\*3</sup>貨物 3,272万トン (105.4%) / うちコンテナ貨物 112万トン (105.6%)**

**輸出 536万トン (121.7%)**  
韓国、中国への揮発油、カナダへの完成自動車が増加  
中国への重油が減少

**輸入 2,736万トン (102.7%)**  
サウジアラビアからの原油、オーストラリアからのLNGが増加  
インドネシアからの石炭が減少

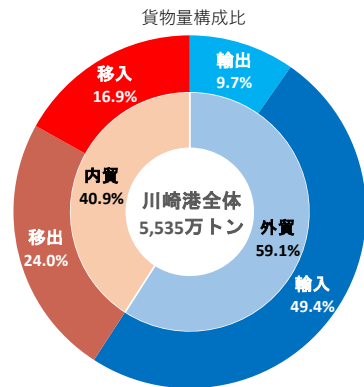
\*3 日本国内と海外の港間を船舶によって貨物を輸送する外国貿易のこと。

**内貿<sup>\*4</sup>貨物 2,263万トン (94.3%) / うちコンテナ貨物 17万トン (148.1%)**

**移出 1,327万トン (100.4%)**  
宇部、茨城への揮発油が増加、横浜、横須賀への石炭が減少

**移入 936万トン (86.9%)**  
喜入からの原油、千葉からのその他の石油が減少

\*4 日本国内の港湾間を船舶によって貨物を輸送する内国貿易のこと。



**コンテナ取扱個数 113,032TEU<sup>\*5</sup> (110.5%)** ※()内の%は対前年比

\*5 コンテナの個数を数える単位。20フィートコンテナ1個=1TEU

**外貿コンテナ 87,750TEU (107.9%)**

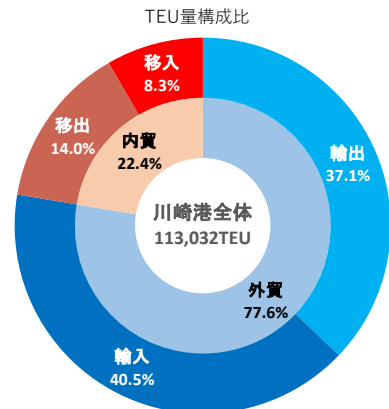
**輸出 41,946TEU (112.9%)**  
韓国への完成自動車、中国への空コンテナが増加

**輸入 45,804TEU (103.7%)**  
韓国、中国からのその他日用品が増加  
ベトナムからの家具装備品が減少

**内貿コンテナ 25,282TEU (120.6%)**

**移出 15,849TEU (123.9%)**  
東京への自動車部品が増加

**移入 9,433TEU (115.6%)**  
千葉からの空コンテナが増加



※数値の詳細は下記URLまたは右記の二次元コードから「速報集計結果」を御参照ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000165551.html>

※川崎港について

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-6-1-0-0-0-0-0-0-0.html>



※川崎港がもたらす経済波及効果について

<https://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000172608.html>

【問合せ先】

川崎市港湾局港湾振興部誘致振興課 小倉  
電話 044-200-0350 (内線 41202)